

【助成事業の名称: 那珂湊本町通り商店街振興組合集客向上事業「那珂湊博覧会」事業】

ポイント

ローカル線が走りネモフィラの花が咲く港町で、若手組合員が結束して参加型イベントを展開

昭和レトロなローカル線と、淡青色のネモフィラの花で有名な「ひたち海浜公園」があるひたちなか市の地域型商店街。観光客とともに日立製作所の企業城下町でもあり若い住民も多いが、購買力は大型店等に流出。歴史ある商店街の良さや、個店と職人の技を知ってもらおうと若手が結束して集客イベント「那珂湊博覧会」を展開。地域の資産でもある「ひたちなか海浜鉄道」を活用したイベントも継続して実施し、地域と街の活性化につなげている。

商店街情報

所在地: 茨城県ひたちなか市東本町12-31
商店街の種類: 地域型商店街
地域人口: 155,142人 64,085世帯
(平成31年4月末現在)
組合員数: 35名(平成31年3月現在)
(主な業種構成: 精肉、惣菜、和菓子、飲食、寝具、衣料品、ホビー、サービスなど)
電話: 029-262-2259 FAX: 029-263-7850
URL: <http://www.naka3710.com/>



商店街の風景

商店街の概要と近年の環境変化

茨城県北東部に位置するひたちなか市。第三セクター方式の運営では、数少ない黒字化路線であるひたちなか海浜鉄道湊線の「那珂湊駅」から徒歩7分、新鮮な海の幸が味わえる「おさかな市場」と駅の間際に位置する地域型商店街。片側一車線の道路と歩道が整備された約400mの街区を有する。近隣には丘一面に広がる淡い青の花「ネモフィラ」で有名な「国営ひたち海浜公園」、太平洋に面した大型規模の「大洗水族館」があり、地域全体では年間を通じて多くの観光客が訪れている。

また、那珂湊は江戸時代には水戸藩の所領として、奥州から江戸への物資輸送の集積港としても栄え、藩の財政に貢献してきた歴史がある。こうした経済活動を背景に、港の繁栄とともに地域の商店も賑わい、街には100年を超える老舗もあって往時を偲ばせている。

平成6年に勝田市と那珂湊市が合併して現在の市政となっており、日立製作所の“企業城下町”として多くの関連工場が立地する工業都市であるほか、水戸市のベッドタウン的な性格も有する。商店街が立地する那珂湊地区は人口28,000人で若い世代も多いが、購買力はひたち海浜公園沿いのロードサイドに立ち並ぶ大型量販店に流れている状況がある。

また、ひたちなか海浜鉄道に対する地域の人々の想いは強く、小中学生、自治会や一般ボランティアによる駅舎の清掃と花壇づくりなどが積極的に行われている。商店街もこの“湊線”に因んだ数々のイベントを鉄道愛好家等との連携で展開しており、現在も鉄道をテーマとした活性化策に力を入れている。



地元住民の足 ひたちなか海浜鉄道



那珂湊の伝統行事 八朔祭りの様子



ネモフィラの花畑

助成事業の概要とその成果

商店街のある地域に観光客は来ているものの、街での買い物は必ずしも多くはない。一方、地域の購買層も高齢化して小売店の売上は減少しつつある。そこで、かつての賑わいを何とか取り戻せないものかと検討している中で、支援機関等からの情報で本事業を知り、本町通り商店街を軸に周辺地域を巻き込んだ活性化イベントとして「那珂湊博覧会」を企画した。本事業では、半年を超える事業期間に、地域の活性化事業と連動させるなどして以下のイベントを展開した。

①那珂湊Syoku-nin通り見える化事業

商店街の各店が持っている修理や加工等の技術に着目。枕職人、風呂職人、ガラス職人やバック職人が店舗前に工房を設置して匠の技を披露。Youtubeの動画や情報誌でも職人を紹介し、地域の人々に店の持つ技術を再認識してもらった。

②那珂湊の巨匠づくり事業

那珂湊ならではの素材や産物を活用した惣菜、スイーツ、和菓子等の「12の旨グルメ」を、作り手の紹介も添えて Youtube動画や情報誌で発信し、集客を狙った。たこ餃子、イカ人参、みなとのアンパン、湊の豆ごま豆腐などの名物を来街したことのない人々に知ってもらう良い機会となり、商店街の飲食部門強化のきっかけとなった。

③那珂湊バル事業

お盆時期の帰省客や来街客をターゲットに、食べ歩き・飲み歩きで商店街の名物や新商品をアピールするためのイベントとして実施。飲食店に加え精肉店、惣菜店、菓子店等は店頭での立ち食い・立ち飲みで対応。がんばっぺ那珂湊・ドーナイトマーケットと連動での開催で大盛況になった。

④那珂湊歳時記まつり事業

商店街の集客事業として、「なかなかやるな那珂湊みなと博覧会」の冠のもと、各店舗が七夕、中秋の名月等四季折々に合せたディスプレイにより商店街の賑わいを演出した。

⑤湊の教えたがり塾事業

「湊鉄道100周年の歴史教えたがりギャラリー」と連動させて来街者の回遊を目的として実施。かつて湊鉄道で使用されていた切符、吊革、ベンチ等部品や資料を複数の店舗の一角に展示。各店で展示物の説明をすることで、鉄道ファンだけでなく新規客がギャラリー店を巡るウォークラリーとして楽しんでもらった。

⑥那珂湊Syoku辞典事業

本町通り商店街の各店舗の情報を、ひたちなか市全域、さらには近隣の地域に知ってもらうため、「食と職」をテーマとした情報誌を発刊。いわば、商店街情報をギュッと凝縮したもので、これを手に来店する観光客も増えるなど大きな効果があった。

⑦消費者特典ネットワーク事業

商店街の商品やサービスをスムーズにネット上で検索ができるよう、Youtubeを活用した店舗別のスライドツールを制作。これを支援機関のホームページやFacebookと連動させ、より広い地域からの集客を目指した。

<助成事業による成果等>

約7ヶ月間に渡って本事業を実施したことにより、地域の人々に商店街の取り組みを再認識してもらい、観光客の来街促進についても一定の効果を上げることができた。また、助成事業の実施に当たり、数々の会議を重ね、商店街の若手や女性達が協力してくれたことと、事業実施の成果を感じ取れたことから、商店街組織全体の連携や団結力が飛躍的に高まった。従来はどうしても「町内会」の壁があり、情報交換も少なかったが、助成事業実施後はコミュニケーションが活発になり、組合活動が非常にスムーズになった。



那珂湊グルメと職人の情報を紙・ネット媒体で発信



上：鉄道資料を店舗で展示している様子
下：湊線開業100周年横断幕

助成事業以降の商店街活動

助成事業を実施したことにより、商店街組織の結束が高まり、これまで以上の多数の組合員の協力を得て、「みなと再発見フェス」等の事業を積極的に展開している。

平成26年度においては、助成事業の成果を踏まえ「那珂湊Syoku-nin通り見える化事業」「那珂湊の巨匠づくり事業」「那珂湊バル事業」「那珂湊歳時記まつり事業」など前年度事業を継続し、商店街の認知度を高めた。

27年度では、新たなイベント事業として「みなと再発見フェス」を開催。ひたちなか海浜鉄道との合同イベントの「鉄道ギャラリー駅」「海浜鉄道スタンプラリー」を実施したほか、地元のB級グルメを活用した「那珂湊焼きそば大学院 焼きそば選手権」「商店街各店自慢の逸品・那珂湊の巨匠」「ドゥナイトマーケット」「子供向けイベント・パブル相撲」等を開催し、8,000名を超える集客を実現した。

28年度も、第2回目のみなと再発見フェスを開催。「ひたちなか海浜鉄道駅巡りスタンプラリー」「三鉄ものがたり・鉄道ジオラマの展示」「那珂湊焼きそばの食べ比べ」等のイベントを開催したほか、ひたちなか海浜鉄道に因んで、全国で初めての「第一回全国鉄道検定試験」を実施。県内外から50人を超える鉄道ファンが参加して、答案用紙に向かった。

29年度においては、第3回目のみなと再発見フェスを開催したほか、新たに毎月第4日曜日に「湊の朝市」をスタートさせた。商店街に八百屋がないことから農家と提携して野菜の販売を行うほか、各商店の朝市限定特売品の販売を行った。

30年度においても、みなと再発見フェスを開催。音楽ライブや大道芸、重機でヨーヨーすくい、三輪車レースなど新たな趣向を凝らして参加者たちを大いに楽しませた。朝市の定期開催も好評で来街者も増えている。

また、海浜鉄道湊線を生かしたまちづくりの一環として、最古の名車「キハ222」を商店街に設置し、これをご神体とする全国初の鉄道神社を作ろうという運動を始めた。

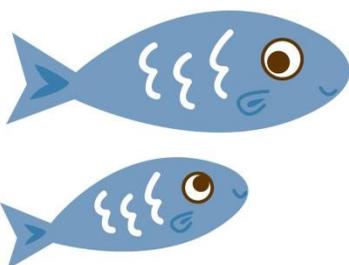
助成事業後に展開しているこれらのイベントは、青年部が中心となって企画しており、斬新な企画力や行動力で街の新しい魅力づくりに挑戦している。



「みなと再発見・フェス」



「湊の朝市」の様子 上:青年部の皆さん 下:新鮮野菜の販売ブース



自治体による活性化支援等

ひたちなか市

ひたちなか市は、平成6年に勝田市と那珂湊市が合併して発足。日立製作所の企業城下町として発展してきたほか、那珂湊を中心とする水産業や阿字ヶ浦の海水浴場、国営ひたちなか海浜公園に代表される多くの観光資源を有しており、茨城県内でも発展を続けている地域である。

現在市内には3つの商店街振興組合があり、近隣地域住民の生活の基盤となっているほか、「勝田全国マラソン」でのおもてなし事業や、ひたちなか海浜鉄道とのコラボレーション等の事業で地域の活性化に貢献してもらっている。

これらの商店街をとりまく課題として、ロードサイドショップや大型店に購買力が流れる中で、街の回遊性をいかに確保し、観光客をどのようにして街に呼び込むか、また、店主の高齢化や後継者問題への対応等も急務となっている。

こうした中で、市の商店街対策としては、商工会議所との協同による、①個店の経営診断と改善指導を行う「繁盛店づくり事業」②12月から1月にかけてライトアップを行う「駅前イルミネーション事業」③空き店舗を活用する「チャレンジショップ事業」④商店街利用者のサービス向上と交流の場として「コミュニティ交流サロン事業」のほか、まちづくり会社や活性化協議会が実施する各種のイベント事業への助成を行っている。

今後も、商店街等のニーズに基づいて支援策を講じていくこととしているが、各個店の努力が商店街の活性化につながることから、個々の店舗のスキルアップや、営業力強化の取り組み等についても期待を寄せている。

商店街の今後の戦略

ここだけのグルメと ローカル線の体験を広域に発信

近年の大型店の出店ラッシュで、商店街の個々の店の経営は一段と厳しさを増している。那珂湊の街をもっと多くの人に知ってもらい、観光客にも足を向けてもらって昔の賑わいを取り戻したいとの思いから助成事業に応募した。事業では「那珂湊博覧会」の名称で、商店街の職人やグルメ店舗のPR、ひたちなか海浜鉄道との連携によるイベントで改めて多くの人々に商店街の良さを知ってもらうことができた。

また、助成事業を通じて組合員同士の交流が一段と深まり、組織の力も強化されてその後の事業運営が非常にスムーズになった事も大きな効果であった。

今後も、ひたちなか海浜鉄道等の地域資源を活用して、個店と商店街の魅力づくりに取り組むとともに、外部に頑張っている姿を発信していきたい。一方、後継者問題も大きな課題で、コミュニケーションをとりつつ、店舗の老朽化対策など可能なところから手を付けていきたい。



～ 仕掛け人 ～

那珂湊本町通り商店街振興組合

中 理事長 奥山正紀
左 副理事長 飛田康弘
右 青年部長 大川恵介

取材を通じて明らかになったこと



多くの街が直面している課題として、交通網の整備に伴う周辺地域への大型店の進出により購買力の流出が続く一方、商店街は高齢化や老朽化に加えて廃業が重なり、人々を呼び込む力を失いつつあることが挙げられる。当商店街も同様な状況の中で、若手が結束し、熱い想いで賑わいを取り戻そうと積極的な取り組みを展開している。特に、商店街と個々の店が長年培った味と技を具体的な形でアピールするとともに、子育て世代に最適なイベントや朝市の実施、地域の資産であるローカル線等を有効に活用した取り組みで大きな成果を上げ、さらに商店街組織の強化にも結び付けている。商店街活動には、知恵と工夫、熱意と行動力、地域資源の育成と活用、そしてこれらを実現する組織力の重要性を再認識させられる取り組み事例であるといえる。